

資料編（案）

1. 策定経過
2. アンケート調査の概要
3. ワークショップの概要
4. グループインタビューの概要
5. 用語説明
6. 和泉市健康増進計画・和泉市食育推進計画検討委員会規則
7. 和泉市健康増進計画・和泉市食育推進計画検討委員会名簿

1. 策定経過

年月日	事項
令和6年5月11日	第1回健康都市いずみ21計画庁内連絡会議
	「第4次健康都市いずみ21・食育推進計画」の策定体制について
	検討委員会構成及びスケジュール、構成(案)について
令和6年5月23日	第1回和泉市食育推進連絡会議 専門部会開催
	策定スケジュール(案)について
	アンケート調査の実施要領(案)について
	「第4次健康都市いずみ21・食育推進計画」の構成(案)について
令和6年6月11日	第1回検討委員会開催
	委員長、副委員長の選出について
	策定スケジュール(案)について
	「第4次健康都市いずみ21・食育推進計画」策定方針(案)について
	和泉市の健康づくりと食に係る概況(速報)について
	市民、小学生・中学生、保護者アンケート調査(案)について。
令和6年7月～8月上旬	①市民アンケート調査実施
	②小中学生アンケート調査実施
	③保護者アンケート調査実施
令和6年7月11日	第1回和泉市健康づくり推進市民会議開催
	第3次健康都市いずみ21計画における各機関等の取り組み予定について
	第3次健康都市いずみ21計画における達成目標の進捗について
	第4次健康都市いずみ21計画の策定について
令和6年7月31日	第1回和泉市職員向けワークショップ実施
令和6年8月7日	第2回和泉市職員向けワークショップ実施
令和6年8月19日	ヘルスアップサポーターいずみ・和泉市食生活改善推進協議会へのグループインタビュー実施
令和6年8月21日	和泉市農業後継者の会へのグループインタビュー実施
令和6年8月22日	第2回和泉市食育推進連絡会議 専門部会開催
	アンケート調査結果(速報)について
	「第4次健康都市いずみ21・食育推進計画」(第1章～第5章)(案)について
令和6年8月29日	第2回検討委員会開催
	アンケート調査結果(速報)について
	第3次計画の評価、第4次計画の基本的な考え方など(計画書第1章～第5章)
令和6年9月17日	第3回和泉市食育推進連絡会議 専門部会開催
	アンケート調査結果報告書(案)について
	「第4次健康都市いずみ21・食育推進計画」(案)について

年月日	事項
令和6年9月25日	第3回検討委員会開催
	アンケート結果の報告、課題整理について
	第4次健康都市いずみ21・食育推進計画第1章～第5章の修正および第6章～第8章(案)の検討
令和6年10月16日	第4回和泉市食育推進連絡会議 専門部会開催
	「第4次健康都市いずみ21・食育推進計画」(案)について
	パブリックコメント(案)について
令和6年10月24日	第4回検討委員会開催
	「第4次健康都市いずみ21・食育推進計画」(案)について
	パブリックコメント(案)について
令和7年1月6日～ 1月31日	意見募集(パブリックコメント)の実施
令和7年1月15日	第2回健康都市いずみ21計画庁内連絡会議
	「第4次健康都市いずみ21・食育推進計画」(案)について
	各課室の行動計画について
令和7年2月19日	第5回和泉市食育推進連絡会議 専門部会開催
	アンケート結果報告書
	パブリックコメント募集結果概要
	「第4次健康都市いずみ21・食育推進計画」(案)について
令和7年2月27日	第5回検討委員会開催
	アンケート結果報告書
	パブリックコメント募集結果概要
	「第4次健康都市いずみ21・食育推進計画」(案)について(資料編含む)

2. アンケート調査の概要

(1) 調査目的

第4次健康都市いずみ21・食育推進計画の策定にあたり、市民や子ども、幼児の保護者の、健康づくりや食育推進に関する意識や意見等を伺い、本市における健康づくり活動や食育の推進に活かし、計画に反映させることを目的として実施。

(2) 調査対象と調査方法

	対象	配布方法	調査期間
①市民調査	16歳以上の市民から無作為抽出	郵送配布 郵送回収またはWeb回答	令和6年7月
②小中学生調査	市内7小学校、5中学校の 小学5年生、中学2年生全 クラス	各学校においてWeb回答	令和6年7～8月
③保護者調査	(1) 保育所、認定こども 園、幼稚園(5歳児)の保 護者 (2) 1歳6か月児・2歳6か 月児歯科・3歳6か月児健 康診査対象児の保護者	(1) 園を通して配布・回収ま たはWeb回答 (2) 健診案内に調査票を同 封・Web回収または健診当 日に紙での回答・回収	令和6年7～8月

(3) 回収状況

	送付数	有効回収数	有効回収率
①市民調査	3,483件	912件	26.2%
②小中学生調査	小学生 556件 中学生 892件 合計 1,448件	小学生 402件 中学生 680件 合計 1,082件	小学生 72.3% 中学生 76.2% 合計 74.7%
③保護者調査	(1) 園保護者 346件 (2) 健診保護者 322件 合計 668件	(1) 園保護者 172件 (2) 健診保護者 120件 合計 292件	(1) 園保護者 49.7% (2) 健診保護者 37.3% 合計 43.7%

3. ワークショップの概要

(1) 目的

第4次健康都市いずみ 21・食育推進計画を策定するにあたって、基本的な方向性に基づき、目指す市民像や施策等に対して意見出しを行い、ロジックモデル構築の強化を図ることを目的として実施。

(2) 対象と方法

開催日	対象者	場所	人数
令和6年7月31日	和泉市職員 (保健師・栄養士・歯科衛生士など)	和泉市立保健センター 会議室	11人 1 グループ5~6名× 2 グループ
令和6年8月7日	和泉市職員 (庁内連絡会議構成員)	和泉市役所別館 3階 3-1 会議室	21人 1 グループ4~5名× 4 グループ

(3) 結果の概要

ロジックモデル案をもとに、初期アウトカム(めざす姿)・指標について検討。キーワードや表現の修正、関連する課題、方向性、指標などについてグループ内で議論を行った後、各グループの議論内容を全体で共有。本ワークショップで得られた意見をもとに、ロジックモデル案の修正や施策等への反映を行った。

中期アウトカム (市民像)	主な意見
睡眠・休養がとれ、こころとからだ健康に保たれている	【めざす姿】悩みがない、睡眠時間が取れており、かつ深さと質がきちんとある。ストレスがない、日常生活に楽しみがある。ご飯が美味しく食べられる、外出が1日1回程度はできる。 人とかかわってコミュニケーションをとる。不調を感じた時に相談できる仲間がいることで気持ちが上がり笑顔が増えポジティブに考えられようになる。基盤として、仕事に行けている、自立した生活が送れていることが大事。
身体活動が増加し、運動習慣が身についている	【めざす姿】毎日歩く、日常的に運動する習慣がついている。普段の中でも階段を使う、運動する意識を持って日常生活を送る。車を利用したい気持ちを抑え、徒歩や自転車での移動を意識する状態。 みんなと一緒にスポーツすることで習慣づくりや体を動かすことが身近に感じることができる。 【施策の方向性】スポーツを楽しむための健康意識の醸成、経済的・時間的余裕が大事。スポーツを楽しめる環境づくりが必要。
健康を維持するための食習慣を身につけている	【めざす姿】毎朝朝食をとる。今は食事を作らない人も多いと思うので、食事のバランスを認識し、どの食事を選んで食べたらいいかの方法を知っている。適正体重を知っている。 自分に合った食事量の把握、過剰摂取に伴う生活習慣病のリスクについて認識で

	<p>きる。過剰摂取であれば食品をどのように摂取するとよいかという知識を得ることが必要。生活習慣病については専門家に相談し、行動に活かす。</p>
自身の健康状態を把握し、健康管理を行っている	<p>【めざす姿】アプリ(アスマイルなど)で健康管理、定期健診を受診し、受診後は放置せず、結果を把握した上で用いて適切に規則正しい生活を送ったり、保健指導を受けて生活を改善していく。古い情報から新しい情報にアップデートして生活に取り入れていく。</p> <p>【課題】受診に必要な金銭の不足や、情報の入手ができていないことが課題。</p> <p>【施策の方向性】アクセスしやすい医療機関の整備や、情報共有できる仲間づくりが必要。</p>
歯と口腔の健康が保たれている	<p>【めざす姿・指標】歯の本数が何本あるか、固いものを普段から噛む力があるか、飲み込んだ時におせないか、歯磨きの回数がどのくらいか。美意識からのホワイトニングなどでなく、普段から生活面を考えていく意識が保っているかどうか。</p> <p>乳幼児に関しては、仕上げ磨きの回数、何歳まで仕上げ磨きをやってもらっているかが指標となる。知識を得て、しっかり噛むことを意識したり、定期健診を受けるなど、日々行動できる。</p> <p>【施策の方向性】歯磨きの大切さの認識、歯磨きの習慣化、定期検診の重要性を広めることが重要。</p>
喫煙による健康への影響から守られている	<p>【めざす姿・指標】こどもの前で大人が喫煙しない、環境を見せない。受動喫煙防止のため、分煙や施設の管理も指標になる。</p> <p>たばこの害、喫煙の害について理解できる。</p> <p>【施策の方向性】喫煙可能な場所や分煙についての情報提供を行う。</p>
飲酒による健康への影響から守られている	<p>【めざす姿】自分の適正、適度な飲酒量の認識。飲み会などの環境、アルコールハラスメントへの対策など、アルコールが身近にない空間を大人が意識する。</p> <p>自身の適度な飲酒量を知る。未成年の飲酒によるリスクを理解できる。</p> <p>【施策の方向性】適量飲酒や、未成年の飲酒によるリスクについて啓発を行う。</p>
食育について関心を持ち、実際に行動している	<p>【めざす姿】偏った知識でなく食事の選択ができる。誰が料理を作るかなど食材が運ばれてくる過程を通して知る。</p> <p>【施策の方向性】食の安心・安全に関する適切な情報や知識の啓発が必要。</p>
食への感謝や食の大切さを認識している	<p>【めざす姿】食に関わる人に感謝できる。具体例として、「いただきます」「ごちそうさま」という言葉を理解し、あらゆる命に感謝の意味を込めて言うことができる。また、食事のマナーを知り、実践ができる。</p> <p>【施策の方向性】会社・学校・農家さんの集まりなど、様々なステージで食育に精通している人が地道に啓発活動を行うことが大事。</p>
食を通じた楽しみやつながりを持っている	<p>【めざす姿】1週間に1回は家族で食事する日を作る、和食について教わる機会を作るなど、関心を持つ。</p> <p>【施策の方向性】世代間交流や様々な人のつながりの中で色々な体験をして、そこで気づきを得てもらうことが大事。</p>

<p>地域での活動や 支え合いの中で 健康づくりが推進 されている</p>	<p>【めざす姿】地域で市民が集まり、活動できる、交流する機会がある。地域の活動の担い手がいる(次世代への継承)。 困ったときに近所でサポートや支え合いができる状況が作られ、地域活動の中の相互交流で心の健康も保たれている。 【課題】健康づくりの場に参加するためには、移動手段も必要。 【施策の方向性】地域における活動内容について情報発信を行う。 近所の人と交流、子育てのコミュニティでの情報共有、地域の会館などの身近な場所で地域住民対象に健康づくり教室を開催。</p>
<p>食育を支える地 域・社会の環境 が整って いる</p>	<p>【めざす姿】和泉市で収穫できる農産物や地域の特産物を知り、学ぶ機会がある。 【施策の方向性】農林業祭や食育合同事業などの学びの機会となるイベントの開催。地域の農産物をこどもたちが食べる、家庭でも地元の農産物を消費するという実体験の機会づくり。</p>
<p>女性がライフス テージごとの健康 課題についての 知識を身につけ、 自ら健康管理を 行っている</p>	<p>【めざす姿】自身の健康状態を記録し、自身の生理周期を認識する。更年期など女性特有のホルモンのバランスによって自分の心が疲れたり、左右されたりする際の対策を知っている。 ライフステージごとの健康課題について知識を身に着けることに、まずは関心を持つ 【施策の方向性】中学生くらいまでに対しては、この先どのようなことがライフステージで起こるかということも含めて性教育が必要。 イベントなどを通して健康管理をしながら、男性を含めた家族からも働きかけ、ライフステージごとの健康管理に関心を持ってもらえるようにする。</p>
<p>妊産婦が喫煙・ 飲酒による健康 への影響から守 られている</p>	<p>【めざす姿】周りが飲酒・喫煙している環境が当たり前でないこと。 飲酒や喫煙による健康への影響がどのようなものか知る。 【施策の方向性】初めての妊娠時は健康を意識しやすいのでタバコの健康影響を知ってもらい禁煙することを徹底するのが大事。 飲酒や喫煙による健康への影響について知る機会を作ることが必要。</p>
<p>女性の健康づくり を支援する環境 が整っている</p>	<p>【施策の方向性】若い世代に対しては無料のジムなど気軽に行けて運動できる施設、子育て世代に対しては保育付きの運動教室などあればよい。壮年期や退職間際の世代には、ヘルシー体操教室など、市がやれる教室などを開催する。 健康ポイントの活用、職場の健診、職場からの運動への補助(ジムの利用など)があればよい。</p>

4. グループインタビューの概要

(1) 目的

和泉市の健康づくりや食育の担い手を対象に、活動状況や活動を行う上での課題、今後和泉市において健康づくりや食育活動を推進していくためのアイデア等について意見を収集し、第4次健康都市いずみ21・食育推進計画の策定等に活かすことを目的として実施。

(2) 対象と方法

開催日	対象者	場所	人数
令和6年8月19日	ヘルスアップサポーターいずみ	和泉市立保健センター 会議室	5名
	和泉市食生活改善推進協議会		3名
令和6年8月21日	和泉市農業後継者の会	和泉市役所本館 3A会議室	10名

(3) 結果の概要

<ヘルスアップサポーターいずみ>

	意見から見た対象者の傾向・意見の内容など
① 活動を行う上での課題意識	<ul style="list-style-type: none"> ○ 会員の高齢化も進んでおり、活動や役割を次の世代に引き継いでいく必要があるが、なかなか難しい。 ○ 様々な働き方や生き方があって、ボランティア活動に時間を割くのが難しくなってきていると思う。
② 健康づくりに効果的だと思う取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時間が取れないことが運動しない理由になっているケースがある。短時間でできる運動の紹介が重要である。 ○ 若いから大丈夫ではなく、若い時から運動し、バランスのよい食事をすれば大丈夫であるという講義があれば参考になるのではないか。 ○ 和泉市には色々よい場所があるので、歩きたくなるまちづくりをしていけたらよい。道が狭いところも多く、山側に行くときの交通手段がない。 ○ ヘルスアップサポーターいずみの活動は、みんなで勉強したり教えてもらいながら考え作っていく楽しさがあり、世代間交流にもなり視野が広がる。また情報も得られる。もっと活動を広めて行く取組が必要と思う。 ○ 広報には様々な健康づくりや食育に関するイベント・講座などが掲載されているが、見ない人もいるため SNS なども活用した情報発信の工夫が必要と思う。 ○ 歩く習慣をつけたり毎日実行できるちょっとした取り組みや短時間でできる取り組みを発信するなど、きっかけづくりの活動があると良い。 ○ 勤労者や学生が参加しやすい内容や時期などの工夫が必要と思う。 ○ 歩きたくでも道幅が狭かったり、側溝の蓋がずれていたりするので、環境面が整うと良いと思う。また、ウォーキングコースでは休憩やトイレの場所・季節の見どころ

	ろ・飲食なども合わせて情報があると歩きやすくなると思う。
--	------------------------------

<和泉市食生活改善推進協議会>

	意見から見た対象者の傾向・意見の内容など
① 活動を行う上での問題意識	<ul style="list-style-type: none"> ○ 会員の高齢化、減少が心配である。活力が減っていくことに不安を感じている。仕事をしていても参加してもらえるような工夫や、若い人にも興味を持ってもらえるような情報発信の仕方を工夫する必要がある。 ○ 会員になるためには、「食と健康教室」の受講が必要であるため、たくさんの人に講座を受けてもらえるよう周知が必要である。 ○ 若い世代の方を増やしたいという思いはあるが、今は共働きが当たり前で、仕事が大変なのでボランティアができる余裕がない。また、自分の周りでは「食育」という言葉も知識がないとできないと、ハードルを上げているのかもしれない。
② 健康づくりに効果的だと思う取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 21 校区ごとに食改のメンバーがいて、こまめに地域で活動できれば、活動の幅も広がり、食育や和泉市食生活改善推進協議会の認知度も上がると思う。 ○ 講座を何か所かで開催したりし、受けやすい形にできるとよい。 ○ 「食育」ということばの認識をどの世代にも身近に感じてもらえるように伝えていくことが必要である。

<和泉市農業後継者の会>

	意見から見た対象者の傾向・意見の内容など
① 食育に取り組む上での問題意識	<ul style="list-style-type: none"> ○ 和泉市は農家の組合がなく、家族経営も多いが、食育などの取組をするにはある程度の人数や規模が必要なため、個々での活動は難しい。 ○ 農業体験を行う中で、安全面の確保や人手の確保が必要になる。観光農園をうたう場合、バスの停車場所確保やトイレの設置などルールが厳しい。
② 食育推進に必要なと思う取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養士が開催する料理教室に野菜を持ち寄ることがあり、既に何か取り組んでいる人とタッグを組むのが最も参加しやすい。 ○ 大阪府の「おおさか健活マイレージ アスマイル」のように、活動することによりポイントが付与される仕組みなどがあれば参加しやすいのではないかと。 ○ マルシェや農林業祭で野菜を提供したり出店したりする集まり自体が消費者と接する機会となっており、和泉市の農家を盛り上げていくことや和泉市の野菜を周知する機会を持つことが必要。 ○ こどもたちが土に触れる機会や農業体験の実施。地域との交流をひろげていく。 ○ 園児の芋ほりの収穫体験でこどもたちが楽しそうに野菜を持ち帰り、料理に使ったなど報告を聞くことが担い手の活動の原動力につながっている。

5. 用語解説

行	用語	初出ページ	解説
あ	アウトカム	3	事業や組織が生み出すことを目的としている変化・効果。
	アウトプット	3	変化・効果を生み出すために提供するモノ・サービス。
	アクションプラン	3	目標を達成するための具体的なプロセスを示す行動計画。
	和泉市食生活改善推進協議会	67	食を通じた健康づくり活動を行う、全国に協議会組織を持つボランティア団体。
	ウェルビーイング	1	健康、経済的安定、社会的なつながり、精神的な満足感など、個々の生活の質や幸福感を総合的に示すもの。
	SNS(エスエヌエス)	59	インターネット上で人や社会との交流が可能な会員制サービス。
	NPO(エヌピーオー)	54	非営利での社会貢献活動や慈善活動を行う市民団体。
	LDL(エルディーエル) コレステロール	25	コレステロール(脂質)の一種。血液中に含まれる量が多くなると、動脈硬化を引き起こす要因となる。
	エンゼルハウス	75	在宅の未就園児を対象に親子が自由に利用できる広場を提供しつつ、各種講座やイベントを実施している、子育て支援地域拠点施設。
オーラルフレイル	87	口の機能が低下した状態。	
か	健康寿命	1	健康上の問題で日常生活が制限されることなく、継続的に自立した生活ができる期間。
さ	セルフケア	74	日常生活の中で自分の心身の健康管理を行うこと。
た	適正体重	5	統計的に最も病気になりにくい体重。
な	ノウハウ	89	専門的な知識や技術、手法や情報。
は	ヒアリング	4	特定の事案に関し、抱えている悩みや課題などの意見を聴取すること。
	BMI(ビーエムアイ)	40	$[\text{体重 (kg)}] \div [\text{身長 (m)}]^2$ で算出される値。肥満や低体重(やせ)の判定などに用いられる。
	PDCA(ピーディーシー エー)	3	Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)の頭文字を取った用語で、これらの4段階を繰り返し行うことで業務管理の継続的な改善を図る手法。計画、実行、評価、改善のサイクルを繰り返し、業務の継続的な改善を図ること。
	肥満度	30	標準体重に対して、実際の体重がどの程度上回っているかを示したもの。
	フレイル	61	加齢や病気により心身の機能が低下した状態。
	プレコンセプションケア	69	妊娠前の健康管理。
	平均寿命	18	0歳における平均余命(0歳が生存するであろうと考えられる平均年数)。

	ベイズ推定	15	推計統計学の手法の一つ。観測された事実から、推定したい事柄を確率的な意味で推論すること。
	HbA1c (ヘモグロビンエーワンシー)	25	血液中のヘモグロビンのうち、ブドウ糖とくっついた糖化ヘモグロビンの割合を示したもの。
	ヘルスアップサポーター いずみ	7	和泉市の「地域健康増進事業推進員養成講座」を修了し、登録された方で構成される地域の健康づくり活動を推進する市民ボランティアグループ。
ま	マネジメントサイクル	90	作業・仕事を効率的に進めるための手順を管理するための仕組み。
	マルシェ	89	生産者と消費者が直接販売・購入する場所。
	メタボリックシンドローム	23	内臓脂肪の蓄積と血圧・血糖・血清脂質のうち2つ以上が基準値から外れる状態。
	メンタルヘルス	83	こころの健康状態。
ら	ライフコースアプローチ	1	胎児期から高齢期に至るまでの人の生涯を経時的に捉えた健康づくり。
	ライフスタイル	1	生活の様式・仕方。また、人生観・価値観・習慣などを含めた個人の生き方。
	ライフステージ	3	人の一生を年齢によって区分したそれぞれの時期。本計画では、妊娠期・乳幼児期、学齢期、青年期、壮年期、中年期、高齢期に区分している。
	リーフレット	83	一枚の紙を折って作られた宣伝などに使用する印刷物。
	レセプト	21	患者が受けた保険診療について、医療機関が保険者（市町村や健康保険組合）に請求する医療報酬の明細書。
	ロジックモデル	70	事業や組織が最終的にめざす変化・効果の実現に向けた道筋を示すもの。
わ	ワークショップ	70	参加者が主体的に参加する体験型の講座。

6. 和泉市健康増進計画・和泉市食育推進計画検討委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、和泉市附属機関に関する条例(昭和32年和泉市条例第43号)第2条の規定に基づき、和泉市健康増進計画・和泉市食育推進計画検討委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(担当事務)

第2条 委員会の担当事務は、和泉市健康増進計画・和泉市食育推進計画策定に係る調査審議に関することとする。

(組織)

第3条 委員会は、委員20人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 関係団体の代表者
- (3) 公募による市民
- (4) 前3号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から当該年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠により選任した委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときはその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集する。ただし、委員長が選任されていない場合その他委員長が招集できない場合は、市長が招集する。

2 委員会の会議は、委員長が議長となる。

3 委員会は、委員の定数の半数以上の委員が出席しなければ会議を開くことができない。

4 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

(関係者の出席)

第7条 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、健康づくり担当部署において処理する。

(補則)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する

7. 和泉市健康増進計画・和泉市食育推進計画検討委員会委員名簿

(敬称略・順不同)

	委 員	所 属
1	内藤 義彦	学識経験者（武庫川女子大学食物栄養科学部 教授）
2	中山 貴美子	学識経験者（神戸大学大学院保健学研究科 准教授）
3	永田 就三	和泉市医師会 会長
4	上嶋 一之	和泉市歯科医師会 会長
5	井上 登紀子	和泉市薬剤師会 副会長
6	沖田 和宏	和泉市社会福祉協議会 障がい支援課長
7	西川 千夏	和泉地域活動栄養士会 会長
8	早崎 泉	和泉市食生活改善推進協議会 会長
9	市川 歩	いずみの農業協同組合
10	豆野 伸彦	シンコースポーツ株式会社
11	橋本 隆次	和泉商工会議所 専務理事
12	嶋田 剛康	和泉市私立幼稚園連合会代表 鶴山台明德幼稚園長
13	前田 充代	公立園長会代表 和泉市立国府幼稚園長
14	廣田 敏宜	和泉市立小学校長会代表 和泉市立鶴山台北小学校長
15	田中 勇	和泉市立中学校長代表 和泉市立槇尾中学校長
16	上梶 真由美	大阪府和泉保健所 企画調整課長
17	石橋 八重子	市民委員
18	藤原 太郎	市民委員